【評価基準】A:目標を達成 B:7割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成

4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない

項日	重点目標	評価指標及び目標		評定	学校による考察と改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%)					
7.0		評価指標	目標値	HT AC	考 察 改善策			pr ju	4	3 2	2 1	肯定率	全体肯定率
		縦割班活動など 異学年集団の交 流を通して、友 達の理解を深 め、仲良く過ごす ことができてい る。	童	А	で、保護者、教職員、地域有識者の四者と ①縦割り班活動や集会活動等、異学年での3 肯定的な評価となっている。特に児童に の機会を今後も大切にした教育課程の編成を 評価が高い。う。到り班活動、集会活動などに加え、今年度 ②全校遊びのような児童による自主的な企画	を行	児童アンケート			8 0			
					は全校給食も実施している。異学年交流の場を 数多く設定することで、互いのよさに触れることができている。 切な指導や支援を行い、よりよい人間関係	、適	保護者アンケート 教職員アンケート			43 C			100
					・1学期は落ち着いた学校生活を送った。今後 も、様々な角度から子供たちを観察し、適切な 指導・支援をしていく。	地域有識者アンケート							
		返事できせばいないできます。 事言、基本のにきないできます。 では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	職員・地域の方の平均肯定率が8m		・児童、地域有識者、教職員の評価がやや低 い。 ・愛治の「あ」は挨拶の「あ」を合言葉にし ②「一人でもやる」回数や経験を増やすこと	児童アンケート	Α	77	15 8	0	92		
	気持ち のよい			Α	て、感謝や礼儀を示す行動がもっととれるようで、校外でも自信を持って表現できる児童にしていきたい。 ・挨拶の声が大きくなったり、自分から挨拶で	を育	保護者アンケート	Α	43	57 C	0	100	94
互いを	挨拶				きたりする様子も見られるようになったという 意見がある一方で、児童による個人差が大き い。引き続き相手を意識した気持ちの良い言動		教職員アンケート			100 C	+		_
を大切					がとれるように指導を続けていきたい。 ・児童、保護者、教職員、地域有識者の四者と ①引き続き、教育相談や情報交換を定期的	に行	地域有識者アンケート	В	83	0 1	7 0	83	
にす					もに、肯定的な評価となっている。 うことで、全教職員が連携して児童理解に ・学級担任の日々の観察や会話だけでなく、養め、共通理解の下で指導・支援を行ってい	「努 いく。	児童アンケート	Α	73	27 C	0	100	
る心					護教諭・スクールソーシャルワーカーとの連 ②児童の気になる言動等について、課題の早期 携、学級担任以外との教育相談など、児童の多解決に取り組んでいくとともに、児童の自己有 面的な理解を深める取組を行うことができた。 用感を高めるための肯定的な声掛けに努める。	保護者アンケート	Α	43	57 C	0	100	100	
						教職員アンケート	A	43	57 C	0	100	
										//			
	学材	・児童と直接会う機会は少ないが、校外学習、学校行事等の様子から、礼儀正しさや挨拶の習慣がよく身に付いていると感じる。 ・誕生日集会が継続されていて、一人一人を大切にする良い活動になっていると再認識した。このような機会を設定することで互いを思いやる心が育つのではないだろうか。 ・学校の対応 ・学校の対応 ・学校の対応 ・今後も全教職員の共通理解の下、児童への適切な指導・支援に努めていく。 ・ つ後も全教職員の共通理解の下、児童への適切な指導・支援に努めていく。											